



文部科学省研究開発学校指定延長第3年次(最終年度)

学校の概要

隣接している幼稚園・小学校・中学校



【研究の目的】

持続可能な開発のための教育として、「たくましく心豊かな地球市民」を育むため

【研究開発課題】

自己表現力・課題探究力・社会参画力を軸として、様々な資質・能力を有機的・総合的に育む、**幼小中一貫教育の教育課程**の効果的な実践の要件抽出と評価の開発

* 学びの領域・教科等の新設による【学びの総合化】の実現

- 小学校低学年における【領域】の設置
- 「遊びの視点」導入による幼小接続の保証
- 小学校高学年における、教科「英語」「技術」の新設による小中接続の保証
- 中学校における、教科等の横断的な学習の充実

* ICT活用による、理数・技術教育、外国語教育の互恵的な充実

研究の仮説（期待される具体的な成果）

* 学びの領域・教科等の新設による【学びの総合化】の実現

- 小学校低学年における【領域】の設置
- 「遊びの視点」導入による幼小接続の保証
- 小学校高学年における，教科「英語」「技術」の新設による小中接続の保証
- 中学校における，教科等の横断的な学習の充実

* ICT活用による、理数・技術教育、外国語教育の互惠的な充実

- 幼小中一貫教育を実現する包括的な教育課程及び指導・評価の提案と普及
- ミッションの再定義に基づく附属学校園の機能強化の実現

研究の経過



幼小中の全職員で、**幼稚園の子供たち**の様子を参観するところから始めた。

イメージする車をつくりたい！

観て、聴いて、感じたことを
自分らしく表現する姿

自己表現力



折り紙を折り返せば赤色になるね。

「思いや願い、問い」をもち

物事の本質を粘り強く見極めていく姿

課題探究力



ここ、
押さえててよ。

多様な価値観をもつ他者と、
共通の目的のために協働する姿

社会参画力



自己表現力



課題探究力



社会参画力



本学校園の子供の育ちを捉える『3つのよさ』

教育課程の内容



教育課程の内容

教科と教科を**内容面で接続**させていくだけではなく、ある教科の課題解決に対して、**他教科の資質・能力を活用・発揮**していくことで、**新たな意味や価値を創出**していく学び



児童・生徒への効果(自己表現力)

幼稚園 (保護者)

「自己表現力」に関する項目はおおむね上昇傾向



小学校 (高学年)

中学校



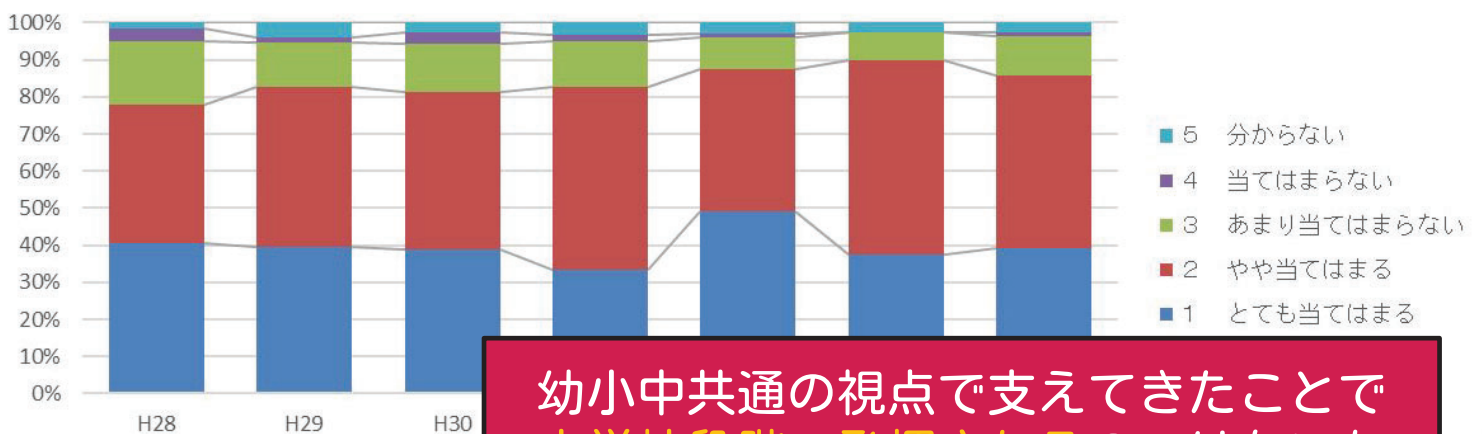
自分の思いが存分に発揮される場が保証されてきたことによる効果

児童・生徒への効果(課題探究力)

課題に対して、最終的に

中学生の「課題探究力」に関する項目はおおむね上昇傾向

さを感じている。

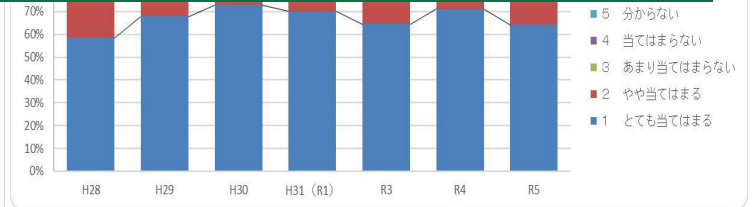
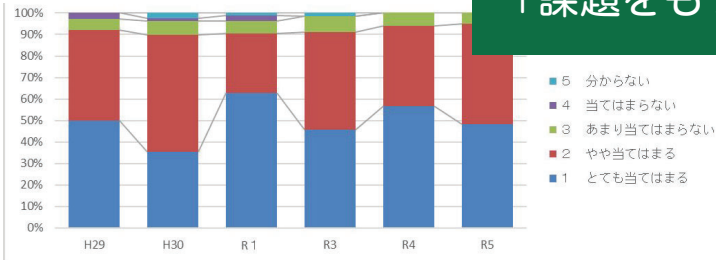


幼小中共通の視点で支えてきたことで中学校段階で発揮されるのではないかと考えられる。

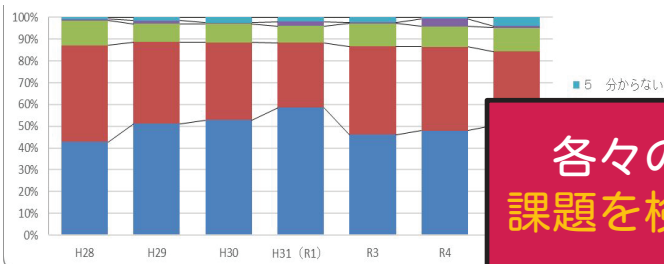
児童・生徒への効果(課題探究力)

幼稚園 (保護者回)

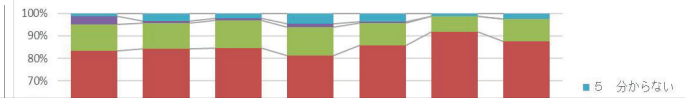
「課題をもつこと」に対してはおおむね上昇傾向



小学校 (高学年)



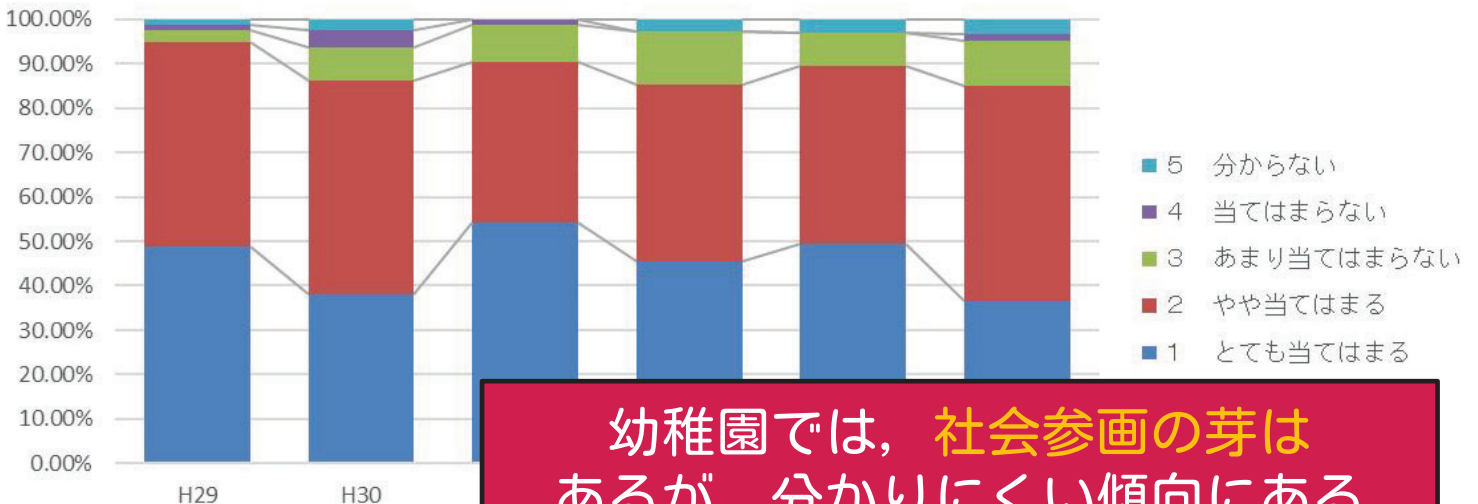
中学校



各々の課題が深く細分化されることで、課題を検討したり吟味したりする力がついた

児童・生徒への効果(社会参画力)

幼稚園の保護者からの「社会参画力」に関する項目は育ちの実感が低い

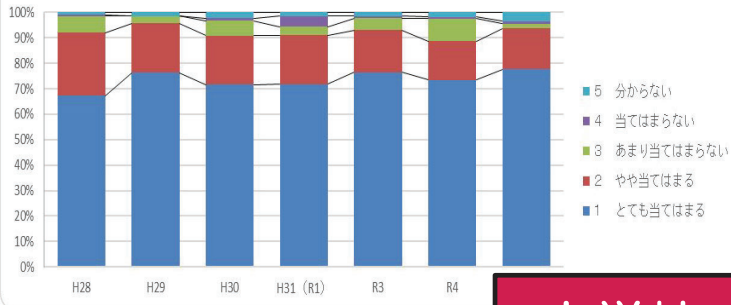


幼稚園では、社会参画の芽はあるが、分かりにくい傾向にある

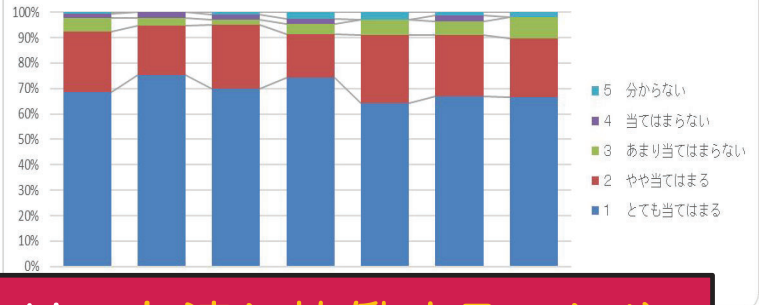
児童・生徒への効果(社会参画力)

小学生の「友達との話し合いや活動への興味関心」はおおむね9割程度

友だちとの話し合いや活動への興味関心 (低学年)



友だちとの話し合いや活動への興味関心 (高学年)

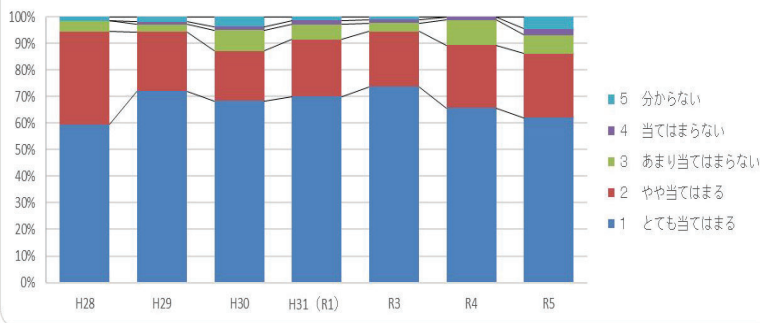


小学校では、友達と協働することや
関わり合う必要感が生まれる

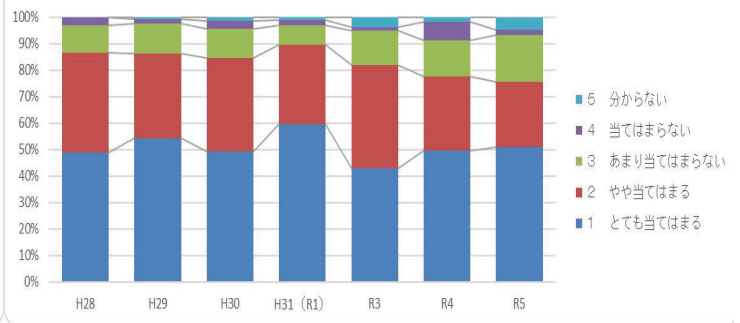
児童・生徒への効果(社会参画力)

小学生の「地域との関わり」に関する項目は比較的低い

地域との関わり (低学年)



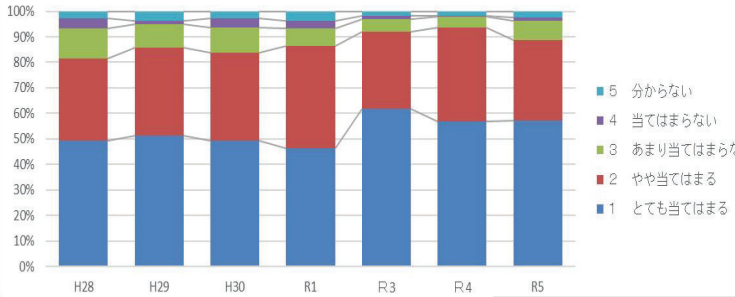
地域との関わり (高学年)



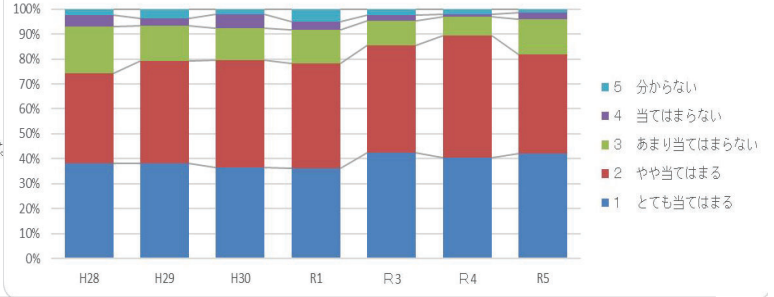
児童・生徒への効果(社会参画力)

中学生の「社会参画力」に関する項目はおおむね上昇傾向

各教科の学習や学級総合等の活動において、仲間とともに活動することに喜びを感じている。



各教科の学習や学級総合等の活動の中で、身の周りの地域の出来事や人々に関心をもって活動している。



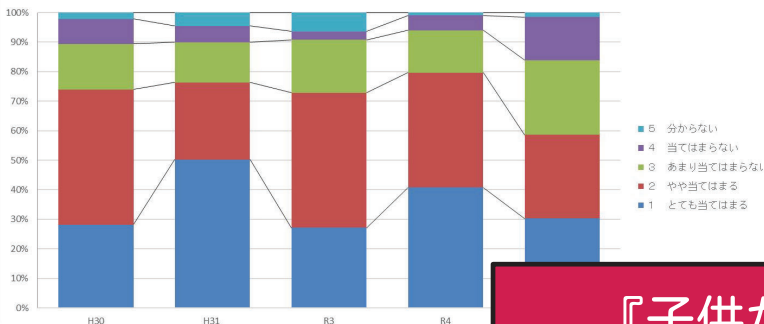
身の回りの地域の出来事や人々に
関心が広がっていく

「英語科」「技術科」導入による効果

英語科

肯定的な回答が約6割に留まる

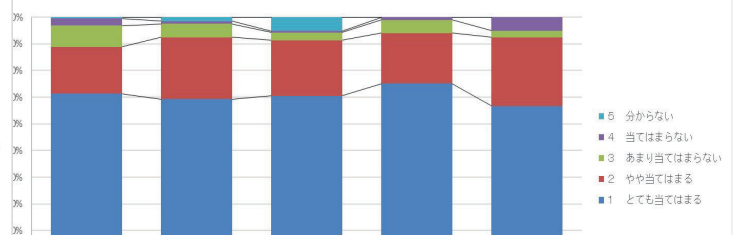
5 わたしは、英語の時間に、友たちや先生に伝えたりすることが好きだ。



技術科

肯定的な回答が約9割

8 わたしは、技術の時間に、自分の作りたいものを考えたり、自分の作りたいものを製作したりするのが好きだ。



『子供から』に徹するためには、
子供の様子の共有、対話が欠かせない

【事例①】 3年生 くらし領域

単元名「藍染」



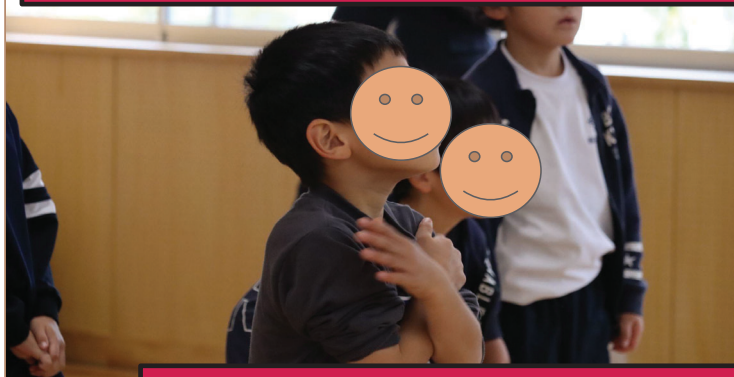
「人」や「もの」を空間や、時間、相互関係に着目して考えたりするなど、2年生の時よりも多面的に目の前の事象を捉える姿

【事例②】 2年生 ひょうげん領域

単元名「何がこの曲を形づくっているのかな～聴いて感じて表現しよう」

5月

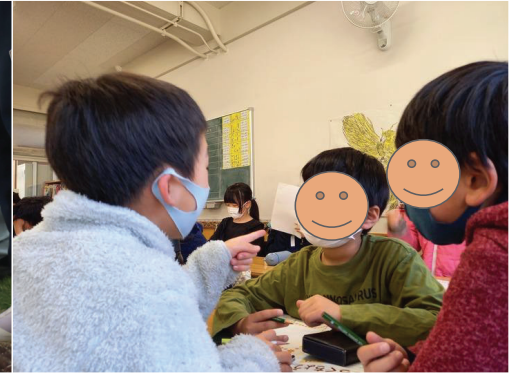
曲を聴いて感じた印象や、「速度」と「強弱」の変化に合わせて身体を動かす姿を多く見た



11月

曲の雰囲気だけでなく、音楽を形づくっている要素を元に、楽曲を味わうといった、より音楽的な見方で曲調を捉えることができるようになっていった

領域から教科への接続のタイミング



【遊びの領域化】

小学校1・2年生まで

【領域の教科化】

小学校3年生から6年生まで

教師への効果

幼稚園の保育を参観した
小学校教員のA先生



正直、小学校の子供たちの姿を見てできないことややらないことが多くて気になっていた。

しかし、今日、園児の姿を見て、色々できることがたくさんあることを感じた。

小学校の子供たちが『できない』のではなく、できなくさせているのは教師なのかもしれないと思った。

子供観の変容

教師への効果

各学校園の教職員で『3つのよさ』で捉えた子供の姿を語り合ったり、校園種を超えた参観をしたりすることで、自身の子供の見方、そして、自身の教育観を揺さぶられる

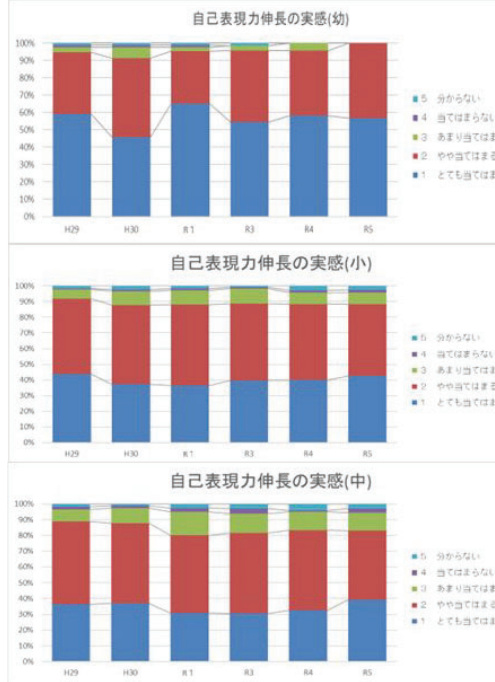
幼稚園の子供が多くのことを学んで、小学校に入学してきていることや、小学校を卒業し中学校に入学すると子供がどのように歩いていくかということ、どのような姿で中学校を卒業していくのかという意識を持って、目の前の子供たちと接することができるようになった

保護者への効果

学校園の教育目標や取り組みは理解していて、子供の姿からもその成果は感じられる。その反面、実際にどのような授業が進められているのか、学校での取り組みの内容がわかりにくい印象はある。教育目標の理解が不十分な保護者もいるため、学校園の役割や目的など理解を深め浸透させていく取り組みも望む。

研究の内容をきちんと伝えるだけでなく、その具体についても今後さらに丁寧に発信していく

保護者への効果



「3つのよさ」に関するどの項目においても高い水準で推移している

「学校で作成したダンボールの家が楽しかったようで、それを持ち帰って来てから何週間も経ちますが、今も増設中です。自分なりの課題があり完成させたい気持ちがあるようです。学校は子供が夢中になる環境なんだと感じています。」

学校内で学びが終わるのではなく、**家庭にも広がっている**

研究実施上の問題点と今後の課題

①再編成した教育課程の評価



「遊びの領域化」：小学校1・2年生
 「領域の教科化」：小学校3年生から6年生まで

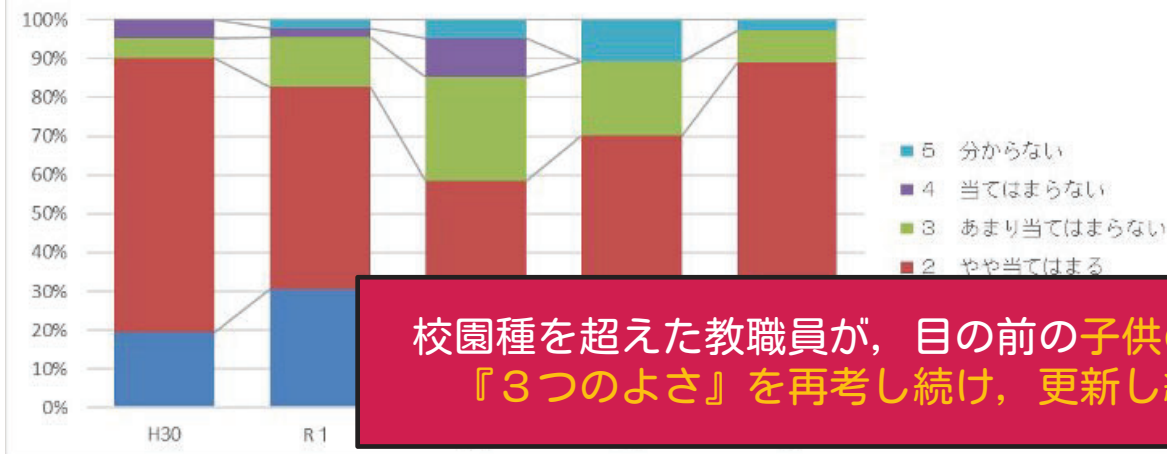
再編したカリキュラムを実施することを通してカリキュラムの妥当性を評価・再編し続ける

研究実施上の問題点と今後の課題

②共通の視点である『3つのよさ』の更新

約1割の教職員が「分からない」「当てはまらない」「あまり当てはまらない」と回答

本中学校園における特別の教育課程の意義や目的への理解ほどのくらいか。



校種を超えた教職員が、目の前の子供の姿から『3つのよさ』を再考し続け、更新し続ける

信州大学教育学部附属松本中学校 外2校（園）



たくましく
心豊かな地球市民を目指して

文部科学省研究開発学校指定延長第3年次(最終年度)